

平成30年5月25日

# 新潟市の事件を踏まえた登下校時の 子供の安全確保対策について



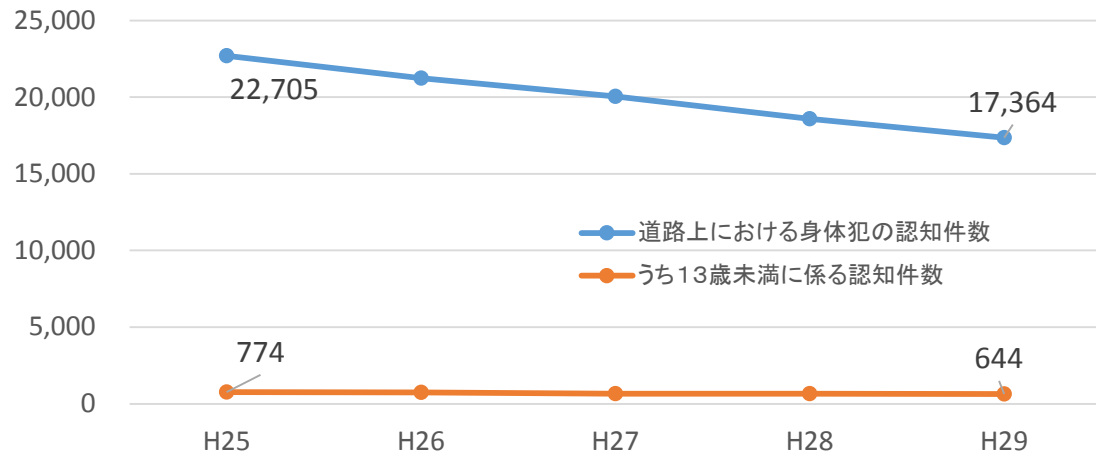
警察庁

National Police Agency

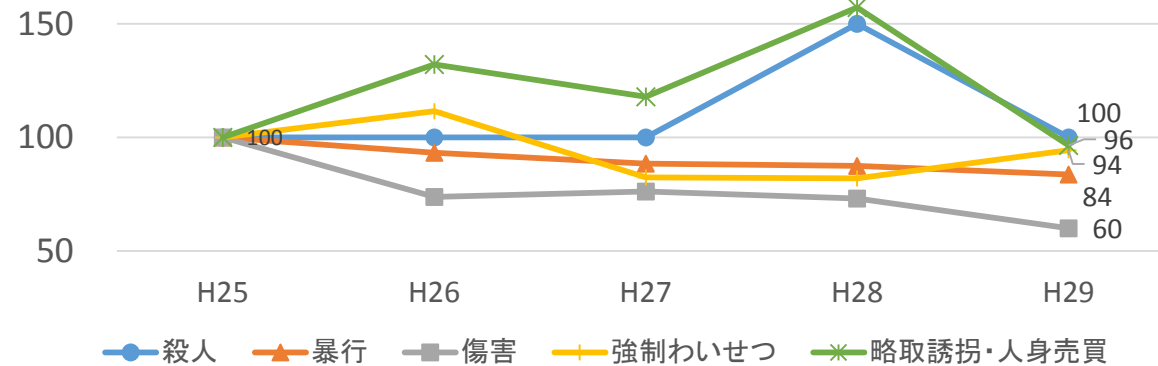
# 道路上における子供の犯罪被害の現状

## 過去5年間の推移

道路上における身体犯の認知件数の推移（H25年～H29年）



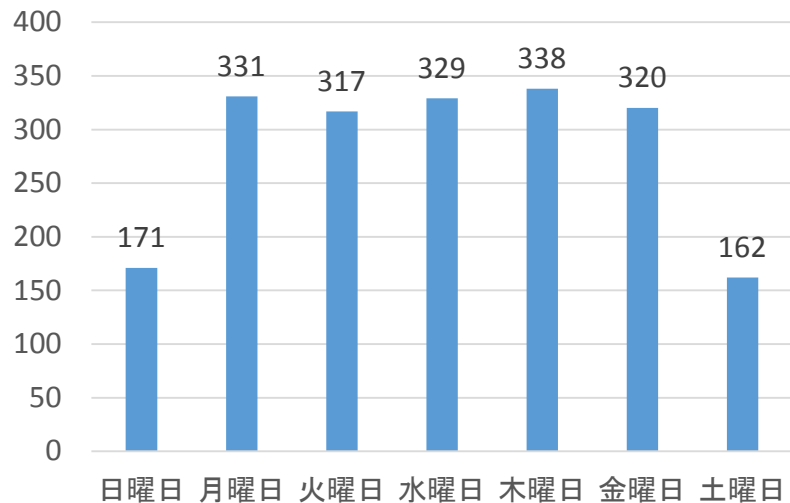
道路上における子供（13歳未満）が被害者となる身体犯の代表的な罪種別の認知件数の指数の推移（H25年～H29年）



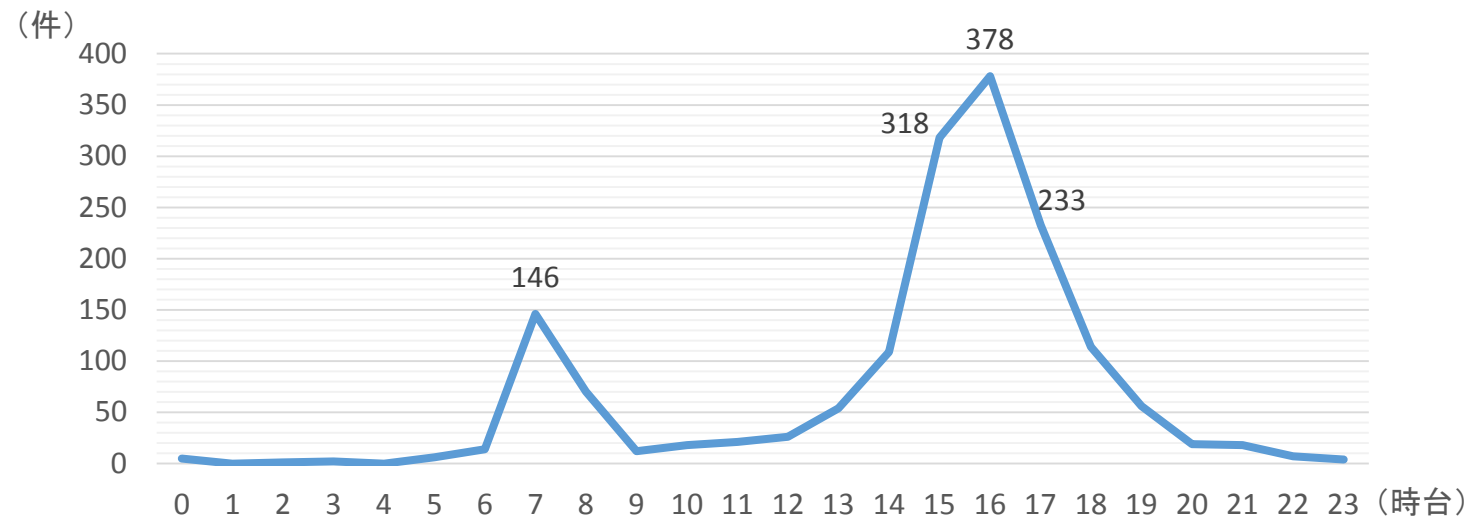
注・・・本項中の「身体犯」とは殺人、暴行、傷害、強制性交等、強制わいせつ、逮捕監禁、略取誘拐の総数の認知件数をいう。

## 過去3年間累計の傾向

道路上における子供（13歳未満）が被害者となる身体犯の曜日別発生状況（H27年～H29年累計）



月曜日～金曜日の道路上における子供（13歳未満）が被害者となる身体犯の時間別発生状況（H27年～H29年累計）



## I 地域における対策

### 犯罪の起きにくい環境の整備

#### 【課題】

- 通学路の見守り活動には一定の限度がある。犯行の死角となる危険箇所等の改善が必要。
- 見守り活動を補完し、犯行の死角を解消するには、市町村による防犯カメラ整備が効果的。  
(例：東京都における全区市町村が行う公立小学校の通学路防犯カメラ設置補助事業)

#### 【対策】

- 学校、自治体、地域住民による通学路の危険箇所等の確認への参画。
- 防犯カメラ整備等の防犯環境整備が必要な箇所等に関する情報提供、助言の実施。
- 自治体を実施する通学路の交通誘導事業とも連携。



### 不審者情報の共有に関する取組の強化

#### 【課題】

- 警察や学校がそれぞれ認知した不審者情報について、相互の情報共有や地域の関係者（保護者、ボランティア等）への伝達が十分になされていないケースがある。

#### 【対策】

- 全国の警察と学校における、不審者情報等の共有体制の再点検・強化。  
(⇒子供・保護者への注意喚起、ボランティア等による重点的な見守り活動を強化)

### 登下校時のパトロール強化

#### 【課題】

- 通学路や学校周辺において、制服警察官の活動を展開することにより、子供・保護者に安心感を与えることが期待されている。

#### 【対策】

- 登下校時の学校・通学路での制服警察官による「見せる警戒・パトロール」を強化。



## Ⅱ 子供への対策

### 実践型の防犯指導等の充実

#### 【課題】

- 子供に対する防犯指導や防犯訓練等を実施しているものの、防犯意識が十分に備わってなかったり、いざというときに対応できていないケースがある。

#### 【対策】

- 実際の通学路における不審者対応訓練など、より実践的な防犯指導等を学校等が実施する際に、警察として協力。
- 学校が開催する防犯教室等への警察官の継続的な派遣。
- 教師、保護者、防犯ボランティア等に対する助言・指導等の実施。



### 子供110番の家・車との連携強化

#### 【課題】

- 警察、市町村、教育委員会等が、それぞれに子供110番の家・車を推進しており、全体像の把握ができていない。
- 子供が危機に際して駆け込んだ場合に、とるべき対応について十分な研修等がなされていない。

#### 【対策】

- 関係機関の協働による子供110番の家・車の総点検、現状把握。
- 子供、学校、保護者等への周知徹底。
- 子供110番の家・車に対する研修、助言等の実施。



上記の各種対策の具体化に当たっては、今年度中に実施予定の「子供と女性に対する犯罪等を防止するための対策に関する調査研究」の知見も活用。